

WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

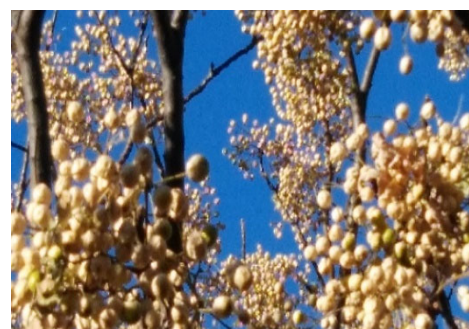
2023年1月号

NO. 254

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

”冬の星座“が見たい。

新しい年。寒い日、暑い日はムリをしません。
1月は、暖かい場所で、1億4千万個の恒星
の「世界最高の星空」を満喫します。残りの時
間は、東急世田谷線（旧タマデン）沿線の由緒
ある社寺、代官屋敷などを巡ります。



そんな贅沢(?)な企画の実現は当日、プラネタリウム席がとれる
かどうかで決まります。

去年は、2年間のコロナによる中断から復活し、「野川」を7回に
分けて下りました。毎回、見どころがあり、楽しめたと思います。し
かし連続性を意識したので、やや窮屈なこともありました。

新しい年は自由にその月々さまざまに企画します。(写真はセンダンの実)

248回WHOウォーキングのご案内

期 日：2023年1月28日(第4土曜日)

コース：小田急線豪徳寺駅ー玉電山下駅ー宮の下
駅ー豪徳寺ー世田谷城址公園ー若林公園
(昼食)ー松陰神社ーボロ市通りー大場代
官屋敷ー世田谷区立郷土館ー世田谷プラ
ネタリウムー東急田園都市線桜新町駅(プ
ラネタリウムに入場できない場合は)ー馬
事公苑ー東急田園都市線桜新町駅

集合・出発：東急世田谷線前(玉電)松陰神社前駅
10:00(集合前にトイレを済ませて)

受 付：初回の方は、必ず連絡先住所、電話番号を
書いてください。これまで書いていない方
もお願いします。

解 散：東急田園都市線桜新町駅 15:00頃

携行品：名札、マスク、健康保険証、弁当、飲料

参加費：300円、交通費、施設利用代400円は各
自負担。初参加の方は、名札代200円。

(必ず装着してください)。

みどころ

世田谷領：現在の世田谷地域は、室町時代から足利
一族の名門、吉良氏が治めていた。戦国時代に

は小田原北条氏と婚姻関係を深めたが、北条氏滅亡によって運命をともにした。江戸時代に世田谷 42 か村中 20 か村が彦根藩領になった。

世田谷城址公園：初代吉良治家が築城、現在の豪徳寺を含む城域で城下町が形成され、現在のボロ市の起源と言われる「六斎市」（楽市）が 1578（天正 6）年に始まった。今は土塁、石垣、空堀が残る公園。

豪徳寺：室町時代の 1480（文明 12）年、城主吉良政忠によって創建。その後領主となった井伊家の菩提寺となった。1860（万延元）年、桜田門外で討たれた大老井伊直弼をはじめ歴代藩主などの墓所もある。「招き猫」の伝説もある。

世田谷八幡宮：源義家が、奥州遠征の帰路、立ち寄って戦勝を祝して寄進したと伝わる。毎年秋に行なわれる奉納相撲は江戸の“三大相撲”のひとつ。境内には現役の土俵と観覧席がある。

松陰神社：安政の大獄で刑死した幕末思想家・吉田松陰は小塚原回向院に葬られたが、1863（文久 3）年、高弟らによって、現在地に改葬された。松陰像、松下村塾を模した家屋もある。

大場代官屋敷：江戸時代中期以降、彦根藩世田谷領 20 か村の代官を務めた大場家の役宅跡。母屋（1737 年立て直し）と門が国の重要文化財に指定されている。

母なる多摩川に二子玉川で合流 「野川下り」の最終回

12 月 17 日は、「野川下り」の最終回でした。午後 2 時過ぎに多摩川兵庫島付近で多摩川との合流点に到達しました。参加は 38 人。

今回の見どころは、①大蔵の永安寺。室町時代に鎌倉で創建、この地で再興したと言われる風格のある寺院でした。②岡本の古民家園。囲炉裏に火が燃えていました。10 人くらいなら火を囲んで盛り上がったでしょうが、とてもムリ。③市民が引いた水道。大正 12 年に、人口増のため、水不足になった当時の渋谷町（現渋谷区）の町民が、多摩川の水を砧浄水場から引いたという水道管を通す高さ 2m ほどの隧道が保存されていました。半分ほどは落ち葉に埋もれていましたが、行政に頼らず、自分たちで組合をつくり成し遂げた心意気は「凄いですね」の声がありました。④往時、多くあった政財界人の別荘のうち世田谷区のトラスト制

度で維持管理されて現存している旧小坂別邸と崖線庭園。この家屋を目指して小さな門から入り、崖線庭園を直登する組と、それを眺めながら自動車道を上り、堂々と車回しのある正門から入る組に別れ、全員が崖上の別邸で落ち合い、しばし豊かな時間を共有しました。⑤旧三菱財閥を創業した岩崎家の廟所のある静嘉堂。彌之助、岩崎小弥太父子が蒐集した、国宝、重文を含む和漢典籍 20 万冊、東洋の古美術 6500 点を収蔵していた文庫、美術館が 2022 年 10 月、東京丸の内の明治生命館美術館に移転したため、庭園とハケの森を散策する予定でしたが、なぜか門が閉ざされて入園できませんでした。⑥野川と多摩川との合流地点。兵庫島付近とされています。ところが、河川の修復大工事のため、巨大な工事用機械が入っていて、立ち入りできませんでした。判ったことは、合流が多摩川の広い河原で行なわれていること。それまで随分川幅も広がり水量が増えて逞しく見えた野川がここでは、工事による水量調節のためか、母の前の子どものようなせせらぎとなって合流していたことでした。登山なら山頂に立てば、達成感があります。川の場合は目的地点に達しても、それはありません。特に野川の場合は、多摩川の南下によってハケに残された川です。それに寄り添って歩き、母なる多摩川に後を託せたという安堵感でしょうか。立ち去りがたい思いがありました。⑦“ニコタマ”と呼ばれる二子玉川のショッピングセンター。これは二子玉川駅で解散後の自由散策となりました。

WHO ウォーキングは、これまでに、「隅田川遡行」2008.2～2009.3 約 24km10 回）、「玉川上水下り」2009.10～2010.12 43km13 回）、「神田川下り」（2015.2～2015.7 約 25 km7 回）と実行しました。今回の「野川下り」は約 20km、7 回でした。（吉田明弘）

（写真は岡本民家園の古民家裏の隧道前）

